

さて、新臨床研修制度が始まって3年目になります。まず、宮城会長にご臨席を賜りました、琉球大学での本年度の新研修医と沖縄県医師会との懇親会の模様を安里常任理事に報告いただきました。また新制度になって第一期研修医が「卒業」したわけですが、那覇市立病院における臨床研修修了証交付式について那覇市立病院 脳神経外科 島袋洋先生からご寄稿いただきました。後期研修に入る研修医の皆さん、これから更なる研鑽を積み、地域医療を支えていけるような力を身につけていけるように頑張ってくださいと思います。また、1年目の研修医の皆さんは先輩研修医の皆さんを見習いつつ、自らの進むべき道を見つけられるように日々、努力していただきたいと思います。

「報告コーナー」では、毎年恒例の指導医のための教育ワークショップについて安里常任理事より報告いただきました。参加された3名の先生方の感想からもわかるように、厳しいながらも充実した内容であったようです。今後も毎年開催していくようですので、機会をつくって参加してみてもどうでしょうか。また、安里常任理事には「産業医は足りているか ～沖縄県産業医研修連絡協議会より～」と題して、産業医不足の状況についても報告いただき、ふれあい広報委員の玉井修先生には、第11回県民公開講座について報告いただいたので、是非、ご一読下さい。

「月間（週間）行事お知らせコーナー」では、『ハンセン病を正しく理解する週間（6/19～6/25）について』と題して国立療養所沖縄愛楽園 園長 山内和雄先生に、『歯の衛生週間

（6/4～6/10）について』と題して沖縄県歯科医師会・地域歯科保健委員 国吉綾子先生に、『沖縄県薬剤師会の薬物乱用防止啓発活動について』と題して沖縄県薬剤師会・学校薬剤師 我部政男先生に、それぞれご寄稿いただきました。会報によって会員の皆様のご理解とご協力をいただければ、県民の皆さんの地域医療・福祉の発展にもつながることと思いますので、是非、ご一読下さい。

「若手コーナー」には、コーナーを新設した当初のねらいについて、広報委員の玉井修先生に執筆していただきました。広報委員会としては、玉井先生が言うように、本来、今まさに岐路に立っている医師たちが様々な形で意見を交換し、問題を語り合い、叱咤激励し合える場として当該コーナーをご活用いただきたいと思っておりますので、会員の先生方からのご投稿をお待ちしております。

今月号の各コーナーへご寄稿いただきました仲原漢方クリニック 仲原靖夫先生、げんか耳鼻咽喉科 源河朝博先生、琉生病院 当間将盛先生、ともし内科循環器科 友利正行先生、かみや母と子のクリニック 神谷鏡子先生、いなふくクリニック 稲福薫先生、お忙しい中、誠にありがとうございました。稲福先生が前生を過ごされた可能性のある中国の旅行記、ご達者な描写で読んでいるうちにその情景が目に浮かんでくるようです。今後とも本会の広報活動にご指導・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

広報委員 植田 真一郎